

蘇生会総合病院 広報誌

SOS E I

そせい

Vol.85

2025年7月号

ご自由にお持ちください
～Take Free～

患者様のSOSに気付ける医療者でありたい

患者様のSOSに応えられる病院でありたい

Contents

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)について

リハビリテーション科の職種紹介

ストーマ外来の紹介

第7回糖尿病教室の様子

電子レンジで簡単!「夏野菜たっぷり蒸しパン」



医療法人社団蘇生会

蘇生会総合病院

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)について

蘇生会総合病院での取り組み

近年、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)は、「人生会議」の愛称で、一般的に知られるようになりました。医療や介護の現場では取り組みをされている施設も多くあるかと思います。地域の皆さんもご存じの方が増えてきているのではないのでしょうか？人はいつ病気になるかもしれないし、急な事故にあうかもしれません。障害を持ったり、意識がなくなったりしたときも、その人がその人らしく生きるために、ご家族やご友人など大切な方と「何を大事に生きていきたいか」、「誰とどこで過ごしたいか」、「医療はどこまでを望むか」など、日ごろから話し合っておくことが大切です。

ACP(人生会議)の啓発活動

入退院支援センターでは、2022年の開設より、入院が決まった患者さん・ご家族に対し、京都市のパフレット『人生の終い仕度』と伏見救急カードをお渡しし、ACPについてお話をさせていただいてご家族でACPの話し合いができるようなきっかけづくりをしています。



当院では、ACPIについてこんな取り組みを行っています！



反応は??

- もう延命はいらなくていつも話してるで。
- そんな話はなかなかせーへんな。
- 大事なことやね。今日帰って話してみるわ。
- そんなことはまだ関係ない。こんなんいらんわ。
- 夫の分も救急カードもう一枚ちょうだい。
- 改めて聞いてみると、ほんまやね。

などなど・・・

様々な反応があります。地域への啓発が必要だなと感じています。まずは、ACPについて知ってもらい、健康な人でも病気の治療をしているどの段階の人でも、話し合うことの必要性を理解してもらえるようなアプローチが大切です。中には、遺産相続のことをACPと思っておられる方もあります。『自分がいなくなった後のことを段取りする』のも、ひとつの思いではありますが、どういう風に自分の人生を送りたいのか？どこで、どんなことをして、どんな生活、どんな過ごし方をしたいのか？絶対譲れないこと、絶対やり遂げたいことは何か？・・・などの『何を大切に生きていきたいのか』が必要です。それらには、延命をするのかしないのか？延命の概念をどうとらえるのか？そういった倫理的要素も多く含まれます。人それぞれとらえ方が違いますし、考えも変化します。だから、定期的に話し合うことが必要です。また、多くの場合、このプロセスにはその人自身が意思決定できなくなった時に備えて、信用できる人(代理意思決定者)を選定しておくことも含みます。そして、ACPや意思決定を行うにあたり、医療者は必要な情報を正確に提供する必要があります。当院では医療者側もこれらのことを理解しアプローチできるように日々努力しています。

ACPシートを活用したACP支援

2025年4月に、ACPチームを発足し、入院患者さんやご家族に『ACPシート』(下記参照)をお渡しして、それをもとに患者さん・ご家族の思いを聞き取り、多職種でカンファレンスを行い意思決定に繋がる支援ができるようにシステム作りに取り組んでいます。



＊毎月事例検討を行い、現場にフィードバックします

ACPではどんなことを話し合うの？

- 患者本人の気がかりや意向
- 患者の価値観や目標
- 病状や予後の理解
- 治療や療養に関する意向や選好、その提供体制



患者・家族でACP(人生会議)を行いシートを記入する



入院前・入院後にACPシートについて説明の上渡す



受け取ったACPシートをもとに、患者・家族の意思決定に繋がるようACP支援を行う



必要時多職種でACPカンファレンスを行い、より良い支援に繋げる

病院に入院中の患者さんは、在宅での生活の場に比べ、慣れない環境で、なかなか『どう生きたいか』などの思いを表出にくい状況にあります。当院でも、できる限り、患者さん・ご家族の思いが表出できるような関わりを心掛け、その思いができる限り実現できるよう、多職種が連携して対応していきたいと思っています。そのためにも、普段からご家族など大切な人や地域支援者とのACP(人生会議)を心掛けていただくことが大切だと感じています。ACP(人生会議)が日常の中で習慣になると良いですね。

リハビリテーション科の職種紹介



こんにちは、リハビリテーション科です。現在リハビリテーション科は理学療法士47名、作業療法士17名、言語聴覚士7名の計71名が所属しています。今回はよく質問されることも多い内容で、リハビリの各職種による仕事内容の違いについて理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がご説明します。この記事を通して皆様によりリハビリ職についてご理解いただければと考えています。

レクリエーションや創作活動から 手段的日常生活動作(IADL)の獲得を目指す

作業療法士



アプローチをしていきます。また、生活に欠かせない日常生活動作(食事、排泄、料理、掃除等)の訓練にはレクリエーション(遊び、スポーツ)や創作活動(ゲーム、体操など)もリハビリの手段として用い、「その人らしい」生活が送れるようにサポートします。さらに社会復帰に向けた職業前訓練(就労に必要な作業能力・耐久性・集中力・正確性等の向上を目標とした訓練)なども行っています。

作業療法士の名称にもなっている「作業」とは、食事や入浴、着替え、排泄などの生活をする上で必要な動作や家事、地域活動、余暇などを含む日常生活全体のことを指しています。作業療法士は病気や怪我、認知症、精神疾患などの様々な理由でこのような「作業」を行うことが困難となった患者様のサポートを行います。例えば、脳の病気によって右手の麻痺が残存してしまい、右手で食事をとることが難しい患者様に対して、作業療法士は右手の機能回復や食べやすくなるための自助具の提案、利き手交換などの



リハビリテーション科 作業療法士
傳藤志織

「動き」を科学で支え、生きる力を引き出す

理学療法士



私たちは、人が人らしく生きるために不可欠な「動き」の専門家です。病気や怪我、加齢によって損なわれた運動機能に対し、科学的根拠に基づいた評価と多様な運動療法、物理療法を用いて、その回復と維持、そして新たな可能性の開拓を支援しています。作業療法士が日常生活動作や応用的動作、言語聴覚士がコミュニケーションや摂食嚥下を専門とするのに対し、理学療法士は「立つ」「座る」「歩く」といった基本的な動作能力を中心にアプローチします。筋力や関節可動域の改善、バランス能力の向上、痛みの軽減を図ることで、患者様が再び自立した生活を送れるようサポートします。その対象は多岐

にわたります。運動器リハビリテーションでは、骨折や関節疾患、スポーツ外傷などによる運動機能障害に対し、痛みの緩和と機能回復を目指します。脳血管リハビリテーションでは、脳卒中後の麻痺や高次脳機能障害に対し、日常生活動作の再獲得や社会復帰を支援します。近年重要性が増している心臓リハビリテーションでは、心疾患をお持ちの方の運動耐容能向上や再発予防、生活の質の向上をサポートします。さらに、がんリハビリテーションにおいては、手術や化学療法による体力低下やリンパ浮腫などに対し、機能回復や症状緩和を図り、その人らしい生活を送れるよう支援します。当院では、多岐にわたる疾患に対し、専門的な知識と技術を持った理学療法士が、患者様一人ひとりの状態に合わせたリハビリテーションを提供しています。「昨日までできなかったことができるようになった」——その瞬間に立ち会えることが、私たちの喜びです。「動き」を通して、皆様のより豊かな生活をサポートできるよう、チーム一丸となって取り組んでいます。



リハビリテーション科 理学療法士
井村拓人

構音障害、嚥下障害、 高次脳機能障害に対するアプローチ

言語聴覚士



言語聴覚士(ST)は「話す」「食べる」「安全に生活を送る」といった人にとって大切な機能に関わる職種です。「話すこと」については脳の病気による「しゃべりにくさ(構音障害)」「ことばが思い出せずスムーズに話ができない(失語症)」に対して、適切な評価や症状に応じた訓練を行います。「食べること」については、脳の病気や加齢による「噛むこと」や「飲み込むこと」の機能低下によるムセなどの症状に対して、医師の指示のもと評価や訓練を行っています。当院では、内視鏡でノドの動きをみる嚥下内視鏡検査やバリウムを混ぜた食品を食べていただきエックス線で口から

食道への流れをみる嚥下造影検査を実施しています。加えてノドの感覚へ働きかける干渉波電気刺激療法も導入しています。またSST(摂食嚥下サポートチーム)にも参加し、看護師や管理栄養士とも連携し、患者様の機能改善や誤嚥性肺炎の予防に努めています。「安全に生活を送る」機能(高次脳機能)については家事や運転などとも関係する注意や記憶、遂行機能(物事を計画をたてて進める機能)について、いろいろな検査を行い症状に応じた訓練を考え、支援しています。突然の病気で「ことば」などへ問題を抱えた患者様やご家族に対する心理的援助も大切にしています。



リハビリテーション科 言語聴覚士
多賀光也・桑原生子

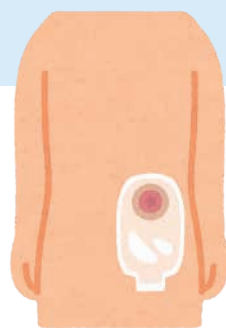
ス ト ー マ 外 来 の 紹 介

当院のストーマ外来は、皮膚・排泄ケア認定看護師が主導して、医師、他職種と連携して専門的な知識に基づく技術や知識を提供し、生活に伴う症状の改善、セルフケアの支援等を行う外来です。



ストーマとは

ストーマとはギリシャ語で口という意味があります。手術で新しく排泄孔(口)を造設された人工膀胱・人工肛門造設をストーマと呼びます。尿排出の方はウロストーマ、便排出の方はコロストーマ保有者(オストメイト)となります。



ストーマ造設における支援

術前のケア(ストーマの説明・ストーマの位置決めサイトマーキング)

セルフケア指導

ストーマケア用品の購入や社会保障

通院困難時は訪問看護の紹介と連携、訪問診療医との連携

排尿、性機能障害の相談及び関連科への紹介

ストーマ外来の曜日

月曜日・木曜日 9:00~12:00 【予約制】

<担当外科医師・皮膚・排泄ケア認定看護師>

当院で手術を受けた患者様や他院での手術を受けられた患者様でもストーマ外来を受診する事ができます。皮膚がかぶれる、だだれる、かゆい、装具からの漏れがある等、一人で悩まず受診ください!



私のモットー
最後まで^み見る
最後まで^{まも}護る

皮膚・排泄ケア認定看護師

渡邊 朋子

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、創傷・瘻孔・失禁を専門分野とし、医師の治療を引き継ぎ、看護ケアを提供して行きます。

第7回 糖尿病教室の様子

4月25日、第7回糖尿病教室が開かれました。今回のテーマは糖尿病とその合併症の予防について。大切なポイントを分かりやすくお話いただきました。

糖尿病内科 上野医師:「糖尿病、どこまで防ぐ?合併症」糖尿病が進行すると、動脈硬化や腎症、網膜症といった合併症が起こることがあります。上野医師は、これらの合併症の原因や予防について、血糖値の管理が合併症予防のカギになることをお話いただきました。

臨床検査科:「糖尿病における検査〜生理検査編〜」検査技師より糖尿病による動脈硬化性疾患について、実際の検査画像を見せながら解説していただきました。普段見ることのない血管の様子を確認することで、合併症の早期発見が大切であることを改めて実感できました。

栄養管理科:「減塩の工夫について」管理栄養士より塩分摂取について、減塩の工夫をお話いただきました。塩分を控えながら美味しく食べるための調理のコツや食べ方の工夫など、すぐに取り入れられるアイデアがたくさん紹介され、参加された皆さんも熱心に聞かれていました。

今回の糖尿病教室では、糖尿病とうまく付き合いながら、合併症を防ぐためにできることを学びました。次回の担当は露木医師、7月11日(金) 14:00~を予定しております。予約不要、参加費無料です。どなたでもご参加いただけます。ぜひお越しください。

今後の予定 11月14日:田川医師 1月(日程未定)藤井医師



文責/健康運動指導士 松本

電子レンジで簡単!「夏野菜たっぷり蒸しパン」



暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか?暑さで食欲が落ちたりしていませんか?今回は暑い夏を乗り切るため、旬の夏野菜を使用した蒸しパンをご紹介します。同じ野菜でも「旬」のものを選ぶだけで、味や栄養価がアップします。夏野菜のトマトはリコピンや抗酸化力の高いβカロテン、皮膚や血管の老化を防ぐビタミンCが豊富です。また、疲労回復効果の高いクエン酸も豊富に含まれているため、夏バテ対策に効果的です。パプリカはピーマンよりもビタミンCやビタミンEが多く、特に赤パプリカはβカロテンが豊富です。ズッキーニに含まれるカリウムは、体内の余分な塩分を排泄し、高血圧を予防する働きがあります。今回は生地に米粉を使用しています。米粉は小麦粉と比べGI値(食後血糖値の上昇を示す指標)が低いため、食後の高血糖を防ぎ、脂肪の蓄積を抑える効果も期待されます。電子レンジで簡単に作ることが出来ますので、ぜひ作ってみてください。

材料 2人前

・パプリカ 1/2個
・かぼちゃ 1/8個
・ズッキーニ 1/2個
・ミニトマト 4個
・トウモロコシ 1/4本
※夏野菜はお好みのお野菜で用意してください♪

・米粉 100g
※米粉は小麦粉でも代用可能です
・ベーキングパウダー 小さじ1
・砂糖 大さじ2
・豆乳または牛乳(水でも可) 70cc
・サラダ油 大さじ1

作り方

- ① 野菜を1cm角にカットする。ミニトマトは半分にカットする。トウモロコシは芯から粒をそぎ落とす。
- ② 耐熱容器に①でカットした南瓜を入れてふんわりとラップをし、電子レンジ(600W)で40秒程度温める。
- ③ ボウルに米粉、ベーキングパウダー、砂糖を混ぜ合わせ、さらに豆乳(または牛乳)、サラダ油を加えて混ぜ合わせ生地を作る。
- ④ ③の生地にカットした野菜を入れて、ざっくりと混ぜる。
- ⑤ 耐熱カップorシリコンカップ等に生地を8分目まで入れる。
- ⑥ ふんわりとラップをかけ、電子レンジ(600W)で約2分程度加熱。(温め時間はカップ等により変わってきます。爪楊枝を刺して生地がつかなければ完成。生地が固まっていなければ、10秒ずつ温めを追加してください。)

栄養価 1個あたり エネルギー:266kcal 塩分:0.2g

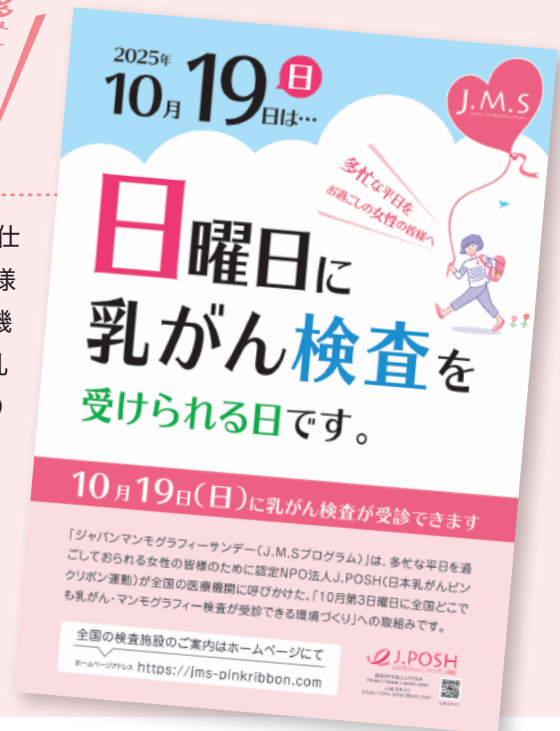
文責/栄養士 永田 麻衣佳

2025年10月19日(日)は 日曜日に乳がん検査が 受けられる日です。

多忙な平日を
お過ごしの方へ
女性の皆様へ

J.M.S(ジャパン・マンモグラフィ・サンデー)は子育て・介護・仕事・家事などで忙しく、平日に検診を受けに行きにくい女性の皆様が、休日の日曜日に「乳がん検診」を受けられるよう、全国の医療機関と認定NPO法人J.POSHが協力して毎年10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィ検査を受診できる環境づくりへの取り組みです。今まで乳がん検査に行ったことが無い方、最近忙しくて行っていない方等、日曜日に受診出来るこの機会に「乳がん検診」を受けてみませんか。乳がんは早期発見・早期治療すれば「ほとんどが治るがん」です。

◆ご予約・お問い合わせは **0120-621-388(直通)**
または直接窓口までお越しください。



蘇生会総合病院の指針

▶理念

思いやりの気持ちで心とからだの蘇生を 患者様の信頼と要望に全力で応える医療を

▶基本方針

- ① 最新で質の高い医療
 - ② 誠実で正しい医療
 - ③ 地域社会に貢献できる医療
 - ④ 急性期疾患と慢性期疾患とを含めた総合的医療
 - ⑤ 患者様の権利を尊重した医療
- 以上を提供する

▶患者様の権利

- ① 人として人格を尊重される権利
- ② 診療内容について十分な説明を受ける権利
- ③ 納得のいかない診療を拒否する権利
- ④ 自分の受けた診療について知る権利
- ⑤ 清潔な環境で診療を受ける権利
- ⑥ プライバシーを保護される権利

▶患者様の義務

他の患者様の迷惑となる言動をしない

▶臨床倫理の方針

患者様を中心とした公正な医療を提供するために、次のとおり臨床倫理の方針を定めます。

- ① 「患者様の権利」を尊重した医療を提供します。
- ② 個人情報の保護と職務上の守秘義務を遵守します。
- ③ 診療行為に関する関係法令を遵守します。
- ④ 国籍、人種、信条などに左右されことなく、公平な医療を提供します。
- ⑤ 生命の尊厳に関する医療行為や臨床研究などは、倫理委員会で審議を行い、方針を決定します。

グループ施設紹介

医療法人社団蘇生会

- ・蘇生会総合病院
- ・蘇生会クリニック
- ・蘇生会総合病院 健康増進センター
- ・老人保健施設 アールそせい
- ・老人保健施設 第2アールそせい
- ・蘇生会訪問看護ステーション
- ・蘇生会居宅介護支援サービスセンター

